

共学校

安田学園中学校高等学校 進学力と教育力で評価高まる 東京東部、学校完結型の進学実力校

学校DATA

最寄り駅 JR総武線・都営地下鉄大江戸線「両国」、都営地下鉄浅草線「蔵前」
所在地 〒130-8615 東京都墨田区横網2-2-25
TEL 03-3624-2666
URL <https://www.yasuda.ed.jp/>

安田財閥創始者の安田善次郎が創立した安田学園。2014年度に共学化。「学校完結型」の学習システムをいち早く推進し、国公立大を中心に進学実績を伸ばしている。語学や探究活動にも力を入れ、部活動も全国レベルで活躍する。立地の良さもあり、高い人気を集めている。

進

学実績が堅調に推移している。2025年度は国公立大へ67人の合格者を出した。MARCHの合格者が初めて300人を超え、早慶上理も100人を超えた。成果が出ることで生徒や保護者からの信頼が一層強まり、中学も高校も学力

上位の生徒が集まってくる、そんな好循環が生み出されている。「国公立大への進学者が多いのは、幅広い進路の選択肢を残すことを意識し、全教科の学習を重視する姿勢を取っているからです。最近では、医学部や海外大学を志望する生徒も増えてきま



安田学園中学校高等学校
稲村隆雄校長

した。理数教育を強化するため、STEM教育の導入や理科室の増設など、教育環境の整備を進めるほか、グローバル教育推進室を新設して、海外大学への

熱意ある教員の授業力が 生徒の学習意欲を高める

対応や国際理解教育、研修企画などを一元管理する体制を整えています」
そう話すのは稲村隆雄校長だ。

特に保護者からの評価が高いのは、学力を伸ばさせる「学校完結型」の学習システムを整えていること。実際に、塾に通わずに難関大学に合格している生徒も少なくない。大切にしているのは、学習習慣と基礎学力の定着である。例えば中1・中2は、週4回、英語と数学のテストを朝15分間行い、理解不足の生徒には放課後の補習が課せられる。英語と数学は単位数が多く、積み残しが出ると受験への影響が大きいからだ。補習になると部活動にも支障が出るので、生徒たちはプライドもあって必死に取り組む。

また、年5回ある定期試験前

の1週間は「独習ウィーク」とし、学習計画を立てて、朝と放課後の時間を学びに充てる。年3回の学期末テスト後は「独習デー」があり、定期試験や到達度テストの結果を受けて、自らの弱点克服に向けた学習計画を立てて実行する。

高校の後半になると、大学入試演習が中心の放課後進学講座や進学合宿、志望校別の夏期講習や冬期講習、大学入学共通テスト模試演習など、手厚いサポートが提供される。

安田学園が強みとするのは、こうした日々の学習への地道な取り組みと、熱意ある教員たちの授業力だ。

「授業力の向上を目的



高1・2の希望者が参加した米国・ニューヨーク研修。春休みの7日間を利用して実施。国連本部（写真上）訪問はじめ、世界を感じる刺激的な日々を過ごした



2024年度、全日本中学校バレーボール選手権大会で優勝した中学・男子バレーボールクラブ



USA School & College Nationals 2025（全国選手権大会）の2部門で優勝した、チアリーディングクラブ

クラブ活動も全国レベル！



第14回高校生バイオサミット in 鶴岡（慶應義塾大学主催）で「山形県知事賞」を受賞した生物クラブのメンバー

に、自身が全教員の授業を年間通して見学しています。特に若手教員の授業力は高く、アクティブラーニングやグループワークなどの実践を通して、生徒を巻き込んだ主体的な学びの場が広がっています。クラス対抗の英単語コンテストなどでは、担任の熱意が生徒の学習意欲をさらに高めています。教員の研修制度や新任教員の育成にも力を入れており、最近では卒業生の教員採用も進めています」と稲村校長は語る。

生徒の主体性を尊重した 学校運営を実現する

安田学園では、グローバル教育にも余念がない。英検取得の積極的なサポートや、ネイティブ教員の授業を多く取り入れた英語授業を実施するほか、異文化理解のためのグローバル体験

を奨励している。高2のオーストラリア修学旅行のほかに、語学研修や各種留学を用意、25年の春休みには希望者による米国・ニューヨーク研修を実施した。

24年度からは、中2・高2の希望者を対象に「第二外国語講座」（フランス語・中国語・韓国語）をスタート。大学受験には直接関係がないものの、生徒たちの人気は高いという。さらに韓国の学校との交流も行っており、明治安田生命と現地企業のつながりから、夏休みと冬休みに互いの生徒（希望者）が行き来する本格的な交換交流プログラムを実施している。

探究学習では、中1・3はグループ探究を実施し、高1以降は個人による論文作成・発表へと進化する。探究学習では論理的思考力を育てる探究サイクルを確立、総合型選抜の入試にも活用されている。

クラブ活動も盛んで中高共に加入率は高い。24年度、中学・男子バレーボールクラブは全日本中学校バレーボール選手権大会で優勝を果たし、生物クラブは国内外の科学コンテストで受賞を重ねるなど、全国レベルでの活躍も目立っている。

また、生徒の主体性を尊重した改革も進んでいる。例えば前述した「独習ウィーク」は、今高校では実施されていない。自分たちで計画的に学習を進められる。失敗したら復活させても

よい」という高校生からの申し入れがあったからだ。校則の見直しも生徒会が中心になって行われ、教員との対話を通じて柔軟な運営が図られている。

キャンパスはJR両国駅から徒歩6分という好立地にあり、都内をはじめ、総武線沿線の千葉エリアから通う生徒も多い。特に高入生は千葉県でもトップクラスの生徒が集まる。

進学実績もさることながら、保護者の評価の高さは、教育内容そのものにある。

「安田学園の教育目的は、国内外の社会で有用となる人材の育成」であり、教育目標は「自学創造」。何より重要なのは、生

徒自身が学校という環境を信じ、能動的に学ぶ姿勢を育んでいることです。この姿勢こそが、安田学園の大きな強みといえます」と、稲村校長は熱く語る。



フランス語・中国語・韓国語から選択できる通年講座「第二外国語講座」は人気がある



夏休みと冬休みに行う韓国との交流交換プログラム。韓国の同世代と異文化理解を深める



JR両国駅から徒歩6分という好立地に安田学園。旧安田庭園の隣に位置する緑豊かな環境だ